

県民の友

今月のこよみ
業と健康の週間
日の愛護マー
貯蓄の日
赤い羽根募金運動

10月17~23日
10月10日
10月17日
12月31日まで

今月の推進月間

労働保険適用促進月間
高齢者雇用促進月間
土地月間
課税移換普及推進月間
仕事と家庭を考える月間

発行 和歌山県知事公室 広報広報課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 ☎073(432)4111

このたび、県民の皆さんのご信任を得て、和歌山県知事に就任しました。あらためて、その重責に身が引き締まる思いです。

今回の選挙に際し、県内を3巡し、あらためて和歌山県の広さ、多様さを知りました。過疎や少子高齢化に悩む地域もあれば、大都市近郊としての課題を抱える地域もあります。また、各地で県政への切実な声や様々な期待を直接お聽かせいただきました。こうした声や期待を真摯に受け止め、各地域にふさわしい個性豊かな施策を推進することが、何よりもこれらの県政に求められていると考えています。

今、地方自治体は厳しい財政運営を強いられています。和歌山県も例外ではありません。財政の健全化を進めつつ、活力と魅力あふれる和歌山県を実現するためには、県民の皆さんの県政への理解とご協力が欠かせず、オーブンで心の通う県政を推進します。

時代は、けつて歩みを止めません。私は、21世紀のトップランナーをめざし、世界に開かれた和歌山づくりを進めるため、ＩＴ（情報技術）を活用した経済・産業の活性化をはじめ、県政の諸課題に、失敗を恐れず、若さとバイタリティで果敢に取り組んでいます。

まるなく21世紀の幕が開きます。県民の皆さん、私と一緒に新しい時代の新しいふるさとづくりを始めましょう。

このたび、県民の皆さんのご信任を得て、和歌山県知事に就任しました。あらためて、その重責に身が引き締まる思いです。

今回の選挙に際し、県内を3巡し、あらためて和歌山県の広さ、多様さを知りました。過疎や少子高齢化に悩む地域もあるれば、大都市近郊としての課題を抱える地域もあります。また、各地で県政への切実な声や様々な期待を直接お聽かせいただきました。こうした声や期待を真摯に受け止め、各地域にふさわしい個性豊かな施策を推進することが、何よりもこれらの県政に求められています。

今、地方自治体は厳しい財政運営を強いられています。和歌山県も例外ではありません。財政の健全化を進めつつ、活力と魅力あふれる和歌山県を実現するためには、県民の皆さんの県政への理解とご協力が欠かせず、オーブンで心の通う県政を推進します。

このたび、県民の皆さんのご信任を得て、和歌山県知事に就任しました。あらためて、その重責に身が引き締まる思いです。



開かれた和歌山 新時代へ発進

知事に就任して 木村良樹

電子メールなどをつかって知事と気軽に意見交換 「知事と親しメール」がスタート

21世紀の素晴らしい「ふるさと和歌山」を創造するため、皆さんのが望んでいます。和歌山県に望まれていることや様々なアイデアをお寄せください。

知事からお返事をお送りします。

- 電子メールアドレス <http://www.wakayama.go.jp/>
- ファックス番号 073(441)2020
- 手紙・はがき 〒640-8585(郵便用番号のため住所の記入は不要)
和歌山県知事あて

*あなたの住所、氏名、年齢、電話番号（ファックス番号）を必ず記入ください。

県立なぎ 看護学校

看護への第一歩はここから

医療技術の高度化や高齢化が進む今日、看護婦・士に対する期待はますます高まりつつあります。現在、和歌山県では、約1万人の看護婦・士が日々、医療・福祉の現場で活躍しています。

看護婦・士になるためには、国家資格が必要です。高校卒業後、看護学校等で学び、国家試験に合格するというのが看護職への一般的な道です。

平成7年、新宮市駒伏に開校した県立なぎ看護学校は、西牟婁・東牟婁地域の看護職員の養成を主な目的にしています。学校名は新宮市の木「ナギ」に由来しています。大地に根ざす「ナギ」の木のように、地域に根ざし人々から慕われる看護職員に育つようにとの願いを込めて命名されました。

学生は、「看護職をめざすは人の役に立ちたいから。思いやりのある優しい看護婦に早くになりたい。」と専門的知識や技術の習得に一生懸命です。実習では地域の公立病院などへ出向き、第一線で働く看護師等の指導を受けながら実践的な経験を積んでいます。

県内にはほかにも、県立医大看護短期大学部や県立高等看護学校をはじめ、公私立を合わせ9校の看護学校・養成所があり、看護婦・士として県立つ日を夢見て学習に励んでいます。



県立なぎ看護学校は、専門性を重視する看護教育を行っています。看護婦・士としての基礎知識や技術を身につけるとともに、患者への対応力やコミュニケーション能力も培います。また、実習を通じて地域社会との連携を深めています。

看護職は、地域社会の命脈である存在です。

夢みて 第一線で活躍する日を

高齢での救助訓練は、必ず取り組む消防学校。真剣な表情の中でも優しさを絶えさせない。看護学校生、炎天下の農場で汗ばむ。ながら栽培技術を学ぶ農業大学校生、油まみれになりながらエンジンルームをのぞき込む高等技術専門校生。みんな、明日の和歌山県を支える若者たちです。様々な分野で知識や技術の修得に励む若者たちのひたむきな姿をお伝えします。

学生は、「看護職をめざすは人の役に立ちたいから。思いやりのある優しい看護婦に早くなりたい。」と専門的知識や技術の習得に一生懸命です。実習では地域の公立病院などへ出向き、第一線で働く看護師等の指導を受けながら実践的な経験を積んでいます。



県立田辺高等 技術専門校

ただ今、 技術修得中

県立高等技術専門校は、新規者や一般の方々を対象とした技術修得を実現するための施設です。県内には3校あります。

県立高等技術専門校は、新規者や

知識や技術の修得に燃える若者たち



県消防学校

みんなの生命を 守りたい

急病の場合や火事、地震、台風などによる自然災害、交通事故等が万一起こったとき、その現場に最初に駆け付けるのが消防職員です。消防職員は、高度な専門知識と鍛え抜かれた身体で消防活動やレスキュー活動、救急患者の搬送などにあたるスペシャリストです。

和歌山市冬野にある県消防学校では、県内各地の消防職員、消防団員等を対象とする専門教育訓練を行っています。消防活動には、主に消火、救急救助、火災の予防の部門があるため、消防学校での教育の内容は多岐に渡り、理化学、建築、気象、医学の基礎など幅広い専門知識の修得とレスキューなどの特殊な技能の訓練、さらには強靭な体力と気力を養うための鍛錬が行われています。

実際の消防活動の中では、一人ひとりの技術だけでなく、チームワークも重要です。学校生活では常に班行動をとるよう心がけ、お互いに助け合い、補い合うことで困難を克服することを学びます。

今春入校の初任教育訓練生は、予想以上に厳しい訓練や規律に驚きながらも、「現場に到着したときに、『私たちが来たからもう大丈夫ですよ。』と声をかけられるよう、自分に自信を持って対応できるようになります。」「知識と経験を積んで、住民に信頼される消防職員になります。」と、真剣に訓練に取り組んでいます。半年の初任教育訓練を修了し、所属消防本部に戻った後もさらに訓練と経験を重ね、地域の消防活動を担う消防職員として、人々の命と財産を守っていきます。





第二阪和国道（阪南市）

大阪府との間

●府県間道路

関西国際空港の開港を契機に、近年、紀泉地域を一括して活性化を図っている。そのためには、府県境の和泉山脈を貫く道路整備が欠かせません。和歌山県内では、第二阪和国道の一部をなす和歌山北バイパス（和歌山市）の建設や、国道371号（橋本市内）、県道泉佐野岩出線（岩出町内）などでバイパス工事が進められています。また、大阪府側でも連携する形でこれら道路の整備が進められています。



国道371号（河内長野市）



国道371号（橋本市）



葛城山頂での植林活動（那賀町）

●葛城山の自然保護活動

府県境の金剛生駒紀泉国定公園内の天然ブナ林8.1ヘクタール（国指定天然記念物）を保全するため、県、府、那賀町、岸和田市、貝塚市で協議会をつくり、保護のための啓発活動や、清掃、ブナの幼木を強風から守るための植林活動などを実施し、身近な自然の保護に努めています。

近畿圏・四国圏では

●大阪湾フェニックス計画

近畿圏の市町村で発生する廃棄物の最終処分場を確保するために、近畿2府4県の自治体等が共同で実施している事業が「大阪湾圏域広域処理場整備事業」、通称「大阪湾フェニックス計画」です。本県では、広川町以北の16の市や町の家庭や事業所から発生する廃棄物（焼却や脱水、破碎などの処理したもの）のうち、約23万トン（11年度）を、和歌山港の積出基地から泉大津市の沖合を埋め立てて造成した処分場へ船で運んでいます。



泉大津沖埋立処分場

●紀淡連絡道路

21世紀のビッグプロジェクトであるこの道路が完成すれば、近畿圏の人・物・情報の流れがループ（輪）状になることで一層活性化するとともに、東海から紀伊半島を経て四国・九州に至る新たな国土軸（太平洋新国土軸）の形成にもつながります。また、紀淡海峡には世界一の吊り橋がかかることになり、和歌山県にすばらしい観光スポットが生まれます。現在、このプロジェクトは、近畿や四国の自治体や経済界が協力して、実現に向け取り組んでいます。



近隣府県と手を携えて ～広域行政の推進～



和歌山県は、大阪府、奈良県、三重県と県境を接しています。また、紀伊水道をはさんで兵庫県や徳島県と向かい合っています。これら隣接する府県をはじめ、近畿の各府県と力を合わせたり助け合ったりすることで、解決したり、より大きな効果を得ている分野が多くあります。関係府県間では、知事によるトップ会議をはじめ担当部局による協議や検討の場を持ち、連携の強化に努めています。今月は、近隣府県と一緒に取り組む広域行政の一端を紹介します。

奈良・三重両県（紀伊半島）との間

●地域資源を活かした地域の活性化



熊野古道ウォーク

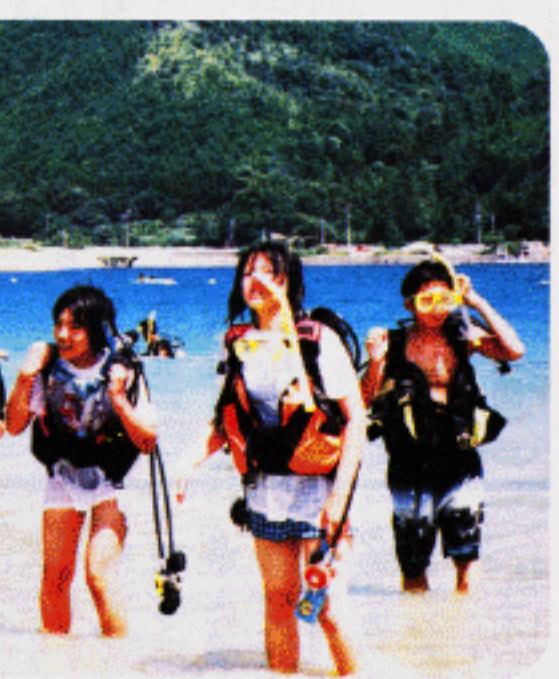
三県境が接する吉野熊野地域のすばらしい海や山の自然を活かした大規模なイベントを、三県が連携して開催し、地域の情報発信や地域内外との交流の促進に取り組んでいます。今年は、地域の森林資源に着目し、2泊3日で森林の持つ様々な魅力を体験する「吉野熊野癒し森林ツアー」を実施する予定です。また、紀伊半島の観光振興の立場から、共同でリーフレットづくりやキャンペーンも実施しています。

●中・高校生の交流

吉野熊野学
和歌山県立
新宮高等学校

次の時代の地域を担う中学生や高校生が、ふるさと紀伊半島の理解を深めるとともに、県域を超えた交流を活発にしようとする取組みが行われています。

和歌山県立新宮高校、三重県立木本高校、奈良県立五條高校・十津川高校の4校間で、テレビ会議システムを利用した遠隔共同授業を実施しています。紀伊半島の自然や歴史・文化などを学ぶ科目「吉野熊野学」を、各校の生徒が、自校にいながら同時に学習しています。



三県中学生によるふれあい交流

3県の中学生を対象に、2泊3日の日程で自然体験や討論会を行う事業も実施されています。昨年は本県熊野川町で、今年は三重県尾鷲市で実施されました。県域を超えて生まれた友情の輪が、新しい地域間交流として大きく育つことが期待されています。

防災ヘリコプターによる救助訓練



●災害発生時の 相互応援協定

阪神淡路大震災を契機に、紀伊半島で災害が発生した際に、3県が相互に被災者の救援・救護に応援することを目的にした協定が平成8年8月に締結されました。この協定に基づき、山火事の消火や山や海での遭難者の捜索救助などに、3県が保有するヘリコプターが県域を越えて出動します。また同様の協定は、近畿2府7県間でも締結されています。

